平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	交通安全対策事業	担当課	交通防災課	
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち	計画期間	年度～
	施策	交通安全の推進	種別	任意の事務
	基本事業	交通安全意識の向上	市民協働	補助事業
予算科目コード	01-020102-01 補助	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>増加する交通事故に対して、自治体でも交通事故の発生を抑制するため、関係団体と連携・協力して交通安全思想の普及・啓発活動を行い、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの向上を図るため実施している。</p>	<p>警察と関係団体による街頭キャンペーン（年4回）の実施と幼稚園や小学校での交通安全教室の開催、交通指導隊による街頭立哨等を行う。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>市民に対して、交通安全の啓発事業を行うことで、市民の交通安全意識の高揚と交通マナーの習慣付けを行い、交通事故発生抑制を図る。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>交通ルールやマナーの向上を目指す。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>交通事故の発生を抑制するためには、歩行者、自転車、自動車に対して交通ルールの遵守と交通マナーの習慣付けを行って行く必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全キャンペーン…年4回（4月6日、7月20日、9月25日、12月3日）（交通指導隊街頭立哨含む） 小学校交通安全教室…14回（通年） 保育所（園）、幼稚園交通安全教室…13回（通年）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>交通指導隊や交通安全協会等と協力・連携し、交通ルールの遵守及び交通マナーの向上のための啓発活動や交通安全教室を継続して実施していく。</p>	

次年度のコストの方向性（→その理由）

☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	<p>交通指導隊員の報酬及び取手地区交通安全協会負担金に要する経費のため、今後も必要である。</p>
--	--

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度 of 取組（評価、課題への対応）
自転車や歩行者の事故が増加し、死亡事故も3件発生しているため、交通事故の発生を抑制するためにドライバーに対する啓発活動を重点的に行う必要がある。	歩行者、自転車の交通マナーの低下に起因する事故を防止するため、交通量の多い交差点での交通安全キャンペーンや自治会等を対象とした講話、未就学児や小学生対象の交通安全教室等を継続的に実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
交通安全キャンペーン延べ実施回数（回）	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
交通安全キャンペーン参加人数（人）	390.00	320.00	340.00	350.00	400.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	交通安全キャンペーンの継続的な実施と交通指導隊による街頭立哨等により、交通安全意識の普及につながっている。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	交通指導隊による交通安全指導のほか、特に子どもや高齢者の交通事故防止を図るため、交通安全キャンペーンや交通安全教室等の啓発活動を継続する。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	458	4,060	4,023	6,187	4,318
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	111	111	103	112	103
	一般財源	347	3,949	3,920	6,075	4,215
正職員人工数（時間数）		231.00	950.00	1,167.00	0.00	0.00
正職員人件費		947	3,895	4,872	0	0
トータルコスト		1,405	7,955	8,895	6,187	4,318

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	放置自転車対策事業	担当課	交通防災課	
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち	計画期間	年度～
	施策	交通安全の推進	種別	法定事務
	基本事業	交通安全意識の向上	市民協働	その他
予算科目コード	01-020102-05 単独	根拠法令・条例等	守谷市自転車等の放置の防止及び自転車駐車場の整備に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
つくばエクスプレスの開通により、駅周辺の歩道に駅利用者による放置自転車が増加し、歩行者の通行に支障をきたしたことから開始した。	（公財）シルバー人材センターへ業務委託し、駅周辺の自転車放置整理区域内の駐輪指導や啓発活動を行う。また、放置自転車には警告札の貼付や一時保管場所への移動を行い、歩行者の安全確保を図る。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
歩行者の通行の安全を確保し、放置自転車の削減を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
交通ルールやマナーの向上を目指す。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
（公財）シルバー人材センターによる駐輪指導により、守谷駅周辺の放置自転車は減少しているが、新守谷駅や南守谷駅周辺の放置自転車が増加しており、定期的な駐輪指導が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・守谷駅…シルバー人材センター：駐輪指導及び放置自転車の移動（土日を除く平日の午前7時から午後4時までの下記の時間帯） 午前7時～午前10時、午前10時～午後1時、午後1時～午後4時 ・新守谷駅 7月、9月、11月、1月、3月…各月1回、早朝駐輪指導、放置自転車の移動 ・南守谷駅 8月、10月、12月、2月…各月1回、早朝駐輪指導、放置自転車の移動
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
新守谷駅及び南守谷駅について、自転車放置整理区域内の定期的な駐輪指導（平日早朝）を行い、放置自転車の削減に努める。	

次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	駅周辺の放置自転車削減のための業務委託費であり、歩行者の安全確保のためには必要な経費である。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度 of 取組（評価、課題への対応）
自転車放置整理区域内の放置自転車を減少させるため、継続的な啓発活動を行うとともに、強制的に自転車を移動させることも必要である。	守谷駅周辺については、シルバー人材センターに委託し、駐輪指導や移動を行い放置自転車の削減に努めた。また、南守谷駅及び新守谷駅周辺については、早朝の駐輪指導や強制移動等を実施し、放置自転車数の削減を図った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
移動台数（一時保管場所）（台）	200.00	86.00	31.00	40.00	40.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	市内の各駅周辺の自転車放置整理区域内の放置自転車について、継続的な駐輪指導、警告札の貼付、強制移動等を実施し削減を図る。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 改善・効率化 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☒ 維持 ☐ 廃止・終了	南守谷駅周辺の自転車放置整理区域内では依然として放置自転車が発生しているため、継続的な駐輪指導、警告札の貼付、放置自転車の強制移動を実施する。				

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	3,255	3,304	3,284	3,415	3,415
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	2	48	60	80
	一般財源	3,255	3,302	3,236	3,355	3,335
正職員人工数（時間数）		41.00	80.00	57.00	0.00	0.00
正職員人件費		168	328	238	0	0
トータルコスト		3,423	3,632	3,522	3,415	3,415

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		通学補助員事業	担当課	学校教育課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち	計画期間	昭和46年度～
	施策	交通安全の推進	種別	法定+任意
	基本事業	交通安全意識の向上	市民協働	その他
予算科目コード	01-100102-02 単独	根拠法令・条例等	学校保健安全法第26条	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
事業開始当時、「緑のおばさん」として親しまれ、以後、婦人交通指導員、さらに現在の通学補助員となった。	市立各小学校の通学路の交通危険箇所（交差点等）に通学補助員を配置し（16箇所、23名、午前7時30分～午前8時30分）、交通誘導を行う。 年度末に、各学校からの補助員配置に係る報告と補助員の意見取りまとめに基づき、新年度の補助員配置場所や実施方法の調整を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
登校時の市立小学校の児童を交通事故から守り安全に登校させるとともに、交通ルール、マナーの向上を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
交通ルールやマナーの向上を目指す。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
危険箇所への立哨要望があがっている。	学校からの要望や8月に実施する通学路合同点検により、危険箇所を把握し、随時、通学補助員の配置換えを行う。 なお、今年度は学校からの要望により、6月に立哨箇所を1箇所増やし、通学補助員も1名増員した。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
通学時補助員及びボランティアの組合せによる立哨により児童の登校における交通安全を図る。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☒ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	立哨箇所が1箇所増加したことに伴い、通学補助員も1名増員したため。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の取組（評価、課題への対応）
危険箇所の報告があった場合は、随時対応した。交通防災課や建設課と連絡をとり、立哨以外の手段で安全を確保できる場合は、その方法で対応した。	今年度は通学補助員を1名増員し、海老原踏切でも立哨を実施した。そのほか報告があった危険箇所についても、建設課など関係課と連絡を取り対応に当たった。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
配置箇所での登校時児童交通事故発生件数（人身）（件）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
通学補助員配置日数（日）	204.00	205.00	204.00	0.00	205.00
成果の動向（→その理由）					
☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下	通学補助員を増員したことにより立哨箇所が増えたため、成果が向上している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	危険箇所での立哨を継続していく。危険箇所の報告があった際には、通学補助員の追加配置以外にも対応策がないか検討していく。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	7,421	7,320	7,612	8,379	9,103
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	7,421	7,320	7,612	8,379	9,103
正職員人工数（時間数）		27.00	87.00	47.00	0.00	0.00
正職員人件費		111	357	196	0	0
トータルコスト		7,532	7,677	7,808	8,379	9,103

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	自転車通学用ヘルメット購入補助事業	担当課	学校教育課	
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち	計画期間	昭和59年度～
	施策	交通安全の推進	種別	任意的事務
	基本事業	交通安全意識の向上	市民協働	その他
予算科目コード	01-100301-02 単独	根拠法令・条例等	学校保健安全法	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
生徒を交通事故から守り、交通ルールの遵守と交通事故発生時のダメージ軽減を図る。	自転車通学の生徒が着用する通学用ヘルメットの購入費を一部負担（1/2）して、着用の徹底をする。また、着用の徹底により、交通安全への意識付けを併せて行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市立中学校の自転車通学生徒の安全確保と交通事故防止への啓発を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
交通ルールやマナーの向上を目指す。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
ヘルメット着用が徹底され、交通安全への意識も向上しているので、今後も助成を継続していく。	通年 ヘルメットを購入した生徒に対して、漏れなく費用を助成する。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
転入生等年度途中でヘルメットを購入する生徒に対しても、漏れなく費用を助成する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	生徒の交通安全を確保するために、助成に係る費用を削減することは困難であるため。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度 of 取組（評価、課題への対応）
ヘルメット購入の補助を行い、ヘルメット着用の徹底、交通安全の重要性の意識付けを図った。	ヘルメット購入の補助を行い、ヘルメット着用の徹底、交通安全の重要性の意識付けを図った。生徒の転入等で新たにヘルメットが必要になった際も、生徒の手元へ迅速にヘルメットが渡るようにした。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
通学生徒のヘルメット未着用事故発生（件）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	ヘルメット着用の徹底を維持するため事業の継続が必要である。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 改善・効率化 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☒ 維持 ☐ 廃止・終了	自転車運転の交通ルールやマナーの指導徹底を図る。				

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	1,569	1,615	1,455	1,745	1,728
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	788	804	737	872	864
	一般財源	781	811	718	873	864
正職員人工数（時間数）		3.00	4.00	5.00	0.00	3.00
正職員人件費		12	16	21	0	0
トータルコスト		1,581	1,631	1,476	1,745	1,728